

## 令和8年度 ミニトマト(アンジェレ) 技術情報 No. 2



- 1 草勢維持：生育に応じてかん水量と追肥、誘引を行いましょう。
- 2 確実な着果：摘花・ホルモン処理を行いましょう。
- 3 病害虫防除：葉かび病、灰色かび病の予防徹底、害虫は初発で対応を。

### 1 栽培管理

#### (1) かん水

晴れた日の午前中に行います。かん水開始のタイミングは日の出**2時間後**が目安です。

**1回あたりのかん水量**は、2本仕立て栽培の場合**株あたり2～4L**です。

夏の高温期は蒸散量の増加に伴い吸水量が増えるため、生育や天候に応じてかん水量を加減してください。

かん水不足では草勢が弱まり、茎が細くなるので注意しましょう。

#### (2) 追肥

草勢を見ながら、**10～14日おきに実施**します。2本仕立ての場合の**標準施肥量**は、**窒素分量で株あたり2g（野菜追肥S535では10g程度）**です。

収穫開始後は着果負担が大きくなります。標準量でも草勢低下が見られる場合は、追肥の量を増やして草勢維持に努めましょう。

粒状肥料を使用する場合は土壌が乾燥していると肥料成分が溶け出しにくいいため、かん水も合わせて行いましょう。

#### (3) 温度管理

「アンジェレ」の生育適温は11～25℃です。**30℃以上の高温は着果不良や着色不良、軟化玉**など生理障害の原因になります。

また、曇雨天後の強日射や高温は萎れを助長しますので、天気予報を見ながら早めに**遮光率20～30%程度の遮光資材**を設置し、活用しましょう。

今年も高温が予想されますので、高温対策を講じてください。

表1 高温対策の例

手法	冷却原理
遮光資材の利用（遮光率20～30%）	遮光・遮熱
換気扇・循環扇	外気導入
つま面開放・肩換気	
白黒ダブルマルチの利用	地温低下
植物の蒸散 （適度な葉数の確保・栽植本数の増加）	蒸発（気化）冷却

#### (4) 誘引

斜め誘引では、生長点が横ばい～下向きになると草勢が低下しやすいため、**遅れないよう上向きに誘引**します。また、光が均一に当たるように**茎と茎の間隔が一定**になるように調整しましょう。

#### (5) 摘花（果）作業

1花房あたりの枝本数は**2本程度**に揃え、**1花房あたり20果**を目安に遅れて開花する花房先端を切るなど、摘花（果）します。高温期は花茎を1本にすると、株の負担が減り、果実品質と草勢が安定します。

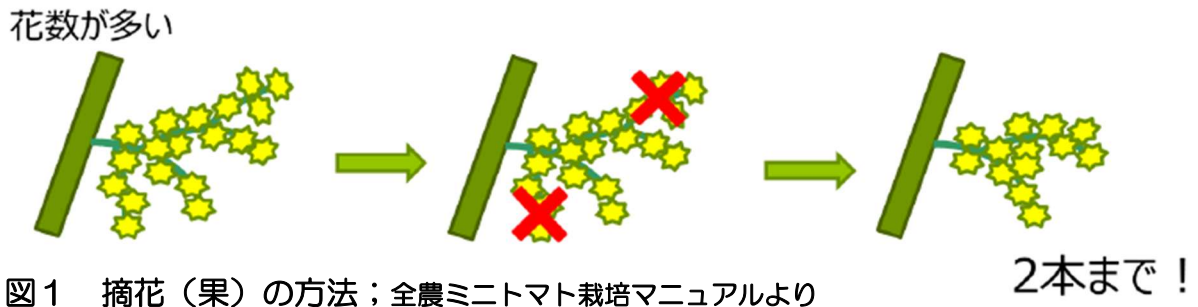


図1 摘花（果）の方法；全農ミニトマト栽培マニュアルより

#### (6) わき芽かき

わき芽は**3～5cmの大きさ**で早めに摘み取ります。作業の順番としては、誘引後に行うのが望ましいです。

開花花房直下のわき芽は、早めに除去しましょう。

#### (7) ホルモン処理

トマトトーン処理により**確実な着果と肥大促進**を図りましょう。

使用する場合は農薬登録を遵守してください。

表2 トマトトーンの農薬登録内容

作物名	使用方法	希釈倍数		使用時期	使用目的	本剤の使用回数
ミニトマト	散布	低温時 (20℃以下)	50倍	開花前3日～開花後3日位	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	1花につき1回
		高温時 (20℃以上)	100倍			

※令和8年5月22日の農薬登録情報に基づき作成しています。



図2 トマトトーン散布のポイント

(8) 摘葉

収穫が終了した果房より下の葉は摘葉します。一斉に摘葉すると草勢低下の原因になるため、数枚ずつ計画的に実施しましょう。

## 2 病害虫防除

- (1) 6月以降は葉かび病、オオタバコガの発生に注意しましょう。
- (2) 防除暦を参考に定期防除を行いましょ。農薬を使用する際はラベル表示を確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 防除は葉裏、下葉まで十分量の薬液がかかるように丁寧に散布します。
- (4) 管理作業で出た葉や果実などの残さは病気の伝染源になります。作業後はほ場外へ持ち出し処分しましょう。
- (5) 萎ちょう病などの土壌病害の拡大防止のために、他の生産者のほ場を訪問する場合には靴カバーを着用しましょう。

病害虫名	6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
灰色かび病															
葉かび病															
アブラムシ類															
アザミウマ類															
コナジラミ類															
オオタバコガ															

図2 発生時期の目安（雨よけ栽培の例） □：発生時期 ■：重点防除時期

(6) 灰色かび病

【発病条件】

曇雨天が続く場合に発生しやすく、窒素過多で発病が助長されます。

【対策】

ハウス内の換気、古い花弁や葉先枯れの除去



図3 葉の病斑（左）と果実のゴーストスポット（右）

## (7) 葉かび病（すすかび病）

### 【発病条件】

発病適温 20～25℃、多湿条件で発生しやすく、肥切れや着果負担で発生が助長されます。（すすかび病の発病適温は 26～28℃とやや高い。）

### 【対策】

下葉の整理、肥培管理や摘果の徹底による草勢維持。葉かび病抵抗性のTY アンジェレでも発生する場合がありますので、草勢維持と定期的な防除を行ってください。



図4 葉かび病の病斑

## (8) オオタバコガ

### 【生態】

県内では7月中旬から 10 月まで成虫の飛来があります。広食性の害虫で、幼虫は生長点付近の莖葉や果実、花蕾などを加害します。

### 【対策】

被害果の片付け、幼虫の処分、防虫ネットの利用

**オオタバコガの発生がここ数年で早まってきています。幼虫や食害痕を見つけたら早期に防除を行ってください。**

オオタバコガが発生した場合は、令和8年度ミニトマト特別散布一覧を参考にして、薬剤散布を実施してください。



図5 オオタバコガ（左：幼虫、右：成虫）

(9) トマトキバガ **管内でも発生が確認されており、警戒が必要です！**

【生態】

ナス科植物を寄主とし、特にトマトに深刻な被害をもたらす恐れのある害虫です。幼虫は0.5～8mm程度と微小で、葉肉内を袋状に食害します。幼虫は、特に新葉や生長点付近を好み、そこに接する茎や果実に被害が拡大します。

【対策】

**薬剤散布**による化学的防除、**適切な摘葉や整枝**による幼虫や卵の耕種的防除、ハウスの入り口や開口部に**目の細かいネット**を張り、成虫の侵入を防ぐ物理的防除を組み合わせた防除が効果的です。



図6 トマトキバガの幼虫



図7 トマトキバガによる食害

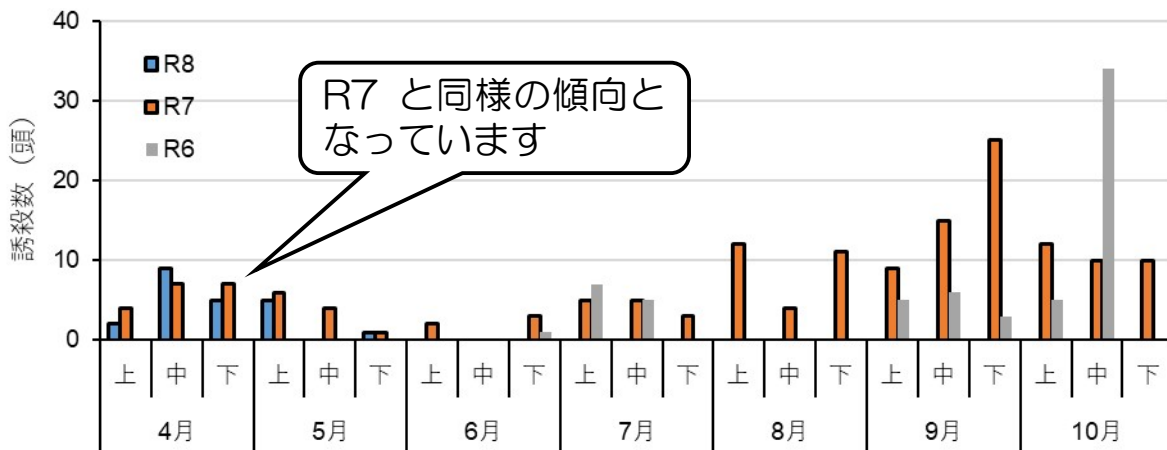


図8 陸前高田市に設置しているトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況 (R8は3/18、R7は3/26、R6は5/24に設置)

**★いわてアグリベンチャーネットメールサービス会員募集中**

農作物技術情報や農村地域の情報を幅広く提供する岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」のメール会員を募集します。

登録方法は以下のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/maillinglist.html>

**★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中**

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。